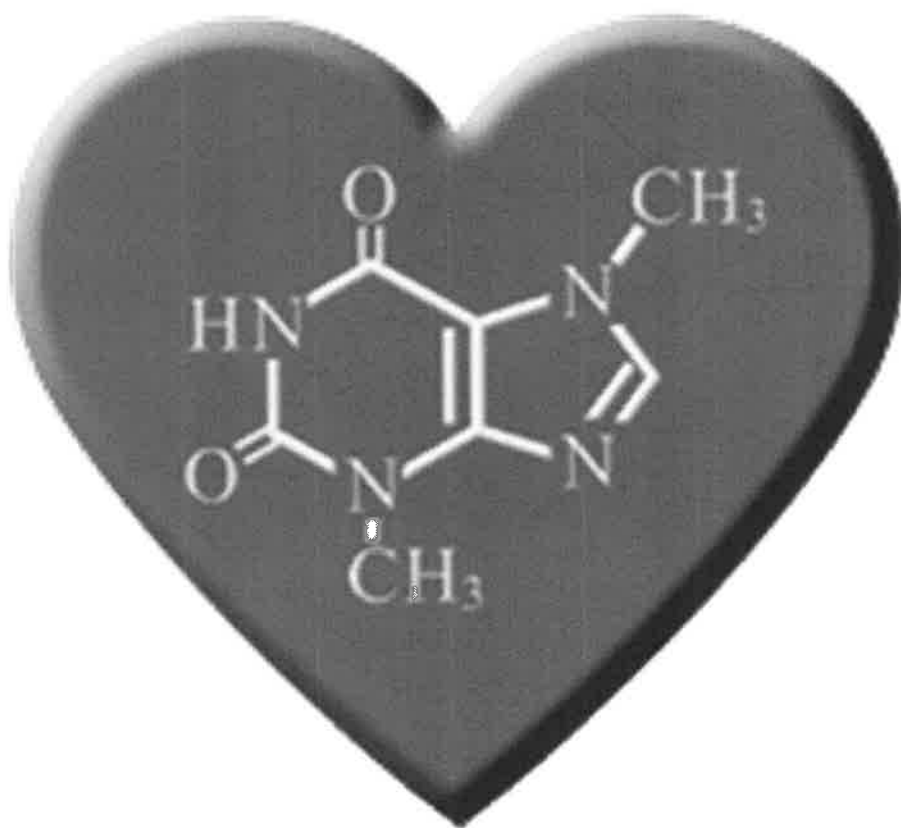


授業ガイド

令和 7 年度



高知県立幡多看護専門学校

教育課程の考え方

《教育理念》

本校では、生命の尊厳に基づく専門職としての倫理観を培い、人々の生きる力を支え、共に考え創造する看護の科学的実践能力を養い、高知県に貢献できる実践者の育成を目指す。

教育にあたっては、主体的、創造的に生涯学習を維持、発展できる能力を培い、学生と共に創りあげていく教育を目指す。

《教育目的》

人間の尊厳を基盤とする豊かな人間性を養い、専門的知識や倫理、判断、技術を統合する能力を修得し、自己の持つ力を行動にうつす実践力を身に付け、あらゆる状況あらゆる場面で、その人らしさを支えていくことができる看護実践者を育成する。

《教育目標》

1. 看護の対象である人間を全人的に理解することができる。
2. 人々の健康上の問題を解決するために根拠に基づいた臨床判断ができる基礎的能力を身につける。
3. 保健医療福祉チームの中で連携、協力し多様な立場で暮らす対象が望む生活を支える基礎的能力を身につける。
4. 専門職として倫理観を持ち、自己教育力を高め看護を追求する力を身につける。

《卒業時の到達目標》

1. 人間を身体・心理・社会・スピリチュアル的に統合された存在として理解できる（知識・理解）
2. 人間は様々な価値観・信念を持って生活するかけがえのない存在であると理解できる（知識・理解）
3. 納得がいくまで考え抜く事ができる（思考・判断）
4. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を身につけている（思考・判断）
5. 豊かな感性を身につけ、広い視野を持ち、看護を創造する基礎的能力を身につけている（興味・関心・意欲・態度）
6. その場、その時、その状況にあわせて根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている（技能・表現）
7. 人々の気持ちに寄り添える思いやりを持ち、援助的人間関係が築ける（技能・表現）
8. 保健、医療、福祉チームにおける看護師の役割を認識し、連携、協働を通じて看護を実践する基礎的能力を身につけている（技能・表現）
9. 専門職として責任を自覚し、看護の質の向上を図る基礎的能力を身につけている（興味・関心・意欲・態度）
10. 自己に向き合い強みと課題がわかる（興味・関心・意欲・態度）

教育課程

分野	指定規則	教育内容	科目名	単位	時間数	1年生	2年生	3年生
基礎分野	14	科学的思考の基盤	論理的思考と表現	1	30	○		
			情報科学	2	30	○		
			情報科学演習	1	30	○		
			教育学	1	15	○		
			スタディ・スキル	1	30	○		
			人間関係の基礎	1	15	○		
			社会学	1	30	○		
			家族と健康	1	30			○
			生命倫理	1	30	○		
			心理学	1	30	○		
		人間と生活・社会の理解	英語Ⅰ	1	30	○		
			英語Ⅱ	1	15			○
			レクリエーション論	1	15			
			小計	14	330	285	0	45
専門基礎分野	16	人体の構造と機能	身体のしくみとはたらきⅠ（生命維持・性・生殖機能）	1	30	○		
			身体のしくみとはたらきⅡ（咀嚼・消化・吸収・排泄機能）	1	30	○		
			身体のしくみとはたらきⅢ（神経・運動・感覚機能）	1	30	○		
			身体のしくみとはたらきⅣ（恒常性維持・自己防衛機能）	1	30	○		
			臨床生化学	1	30	○		
		疾病の成り立ちと回復の促進	感染と免疫	1	30	○		
			病理学	1	30	○		
			疾病と回復過程Ⅰ（生命維持・性・生殖機能）	1	30	○		
			疾病と回復過程Ⅱ（咀嚼・消化・吸収・排泄機能）	1	30	○		
			疾病と回復過程Ⅲ（神経・運動・感覚機能）	1	30	○		
			疾病と回復過程Ⅳ（恒常性維持・自己防衛機能）	1	30	○		
			臨床薬理学	1	30	○		
			治療Ⅰ（手術療法、救急治療、ME機器）	1	15	○		
			治療Ⅱ（リハビリテーション療法）	1	15	○		
			治療Ⅲ（放射線治療、内視鏡治療、検査）	1	15	○		
			栄養と食生活Ⅰ	1	15	○		
			栄養と食生活Ⅱ	1	15		○	
	6	健康支援と社会保障制度	医療と倫理	1	15	○		
			公衆衛生	2	30		○	
			社会福祉論	2	30			○
			看護関係法規	1	15			○
			小計	23	525	435	45	45
専門分野	11	基礎看護学	基礎看護学【目的・対象論】	2	60	○		
			基本技術Ⅰ	1	30	○		
			基本技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1	30	○		
			基本技術Ⅲ（看護過程）	2	45		○	
			生活援助技術Ⅰ	2	45	○		
			生活援助技術Ⅱ	1	30	○		
			診療の補助技術Ⅰ	1	15	○		
			診療の補助技術Ⅱ	1	30		○	
			臨床看護論	1	30		○	
			臨床判断演習	1	15		○	
	6	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論【目的・対象論】	1	30	○		
			地域・在宅看護方法論Ⅰ（専門職連携）	1	15	○		
			地域・在宅看護方法論Ⅱ（看護）	2	30		○	
			地域・在宅看護方法論演習Ⅰ（専門職連携演習）	1	15		○	
			地域・在宅看護方法論演習Ⅱ（看護過程）	1	15			○
	6	成人看護学	成人看護学【目的・対象論】	1	30	○		
			成人看護方法論Ⅰ（急性期）	1	30		○	
			成人看護方法論Ⅱ（回復期）	1	30		○	
			成人看護方法論Ⅲ（慢性期）	1	30		○	
			成人看護方法論Ⅳ（終末期）	1	30		○	
	4	老年看護学	成人看護方法論演習	1	30		○	
			老年看護学【目的・対象論】	1	30	○		
			老年看護方法論Ⅰ（病態）	1	15		○	
			老年看護方法論Ⅱ（看護）	1	30		○	
	4	小児看護学	老年看護方法論演習（看護過程・技術）	1	30		○	
			小児看護学【目的・対象論】	1	30		○	
			小児看護方法論Ⅰ（疾患）	1	30		○	
			小児看護方法論Ⅱ（看護）	1	30		○	
	4	母性看護学	小児看護方法論演習（看護過程・技術）	1	15		○	
			母性看護学【目的・対象論】	1	30		○	
			母性看護方法論Ⅰ（妊娠・分娩期）	1	30		○	
			母性看護方法論Ⅱ（産褥期・新生児）	1	30		○	
	4	精神看護学	母性看護方法論Ⅲ（健康障害）	1	15		○	
			精神看護学【目的・対象論】	1	30	○		
			精神看護方法論Ⅰ（疾患）	1	30		○	
			精神看護方法論Ⅱ（看護）	1	30		○	
	4	看護の統合と実践	精神看護方法論演習（看護過程）	1	15			○
			看護管理学（看護管理・看護安全・看護倫理）	1	30		○	
			看護研究論	1	30		○	
			災害看護学	1	15			○
	23	看護の統合と実践	看護の統合と実践	1	30			○
			基礎看護学実習Ⅰ（体験実習、援助体験実習）	1	45	○		
			基礎看護学実習Ⅱ（日常生活・診療援助実習）	2	90		○	
			地域・在宅看護論実習	2	90			○
			成人・老年看護学実習Ⅰ（健康管理実習）	1	45		○	
			成人・老年看護学実習Ⅱ（高齢者生活支援実習）	2	90		○	
			成人・老年看護学実習Ⅲ（看護過程実践実習）	3	135		○	
			成人・老年看護学実習Ⅳ（退院支援実習）	2	90			○
			成人・老年看護学実習Ⅴ（急性期実習）	2	90			○
			小児看護学実習	2	90			○
			母性看護学実習	2	90			○
			精神看護学実習	2	90			○
			看護の統合と実践	2	90			○
			小計	68	2175	390	1080	705
	102	総計		105	3030	1110	1125	795

令和7年度 特別教育活動等

期日	項目	ね ら い	時間数		
			1 年	2 年	3 年
R7. 4/7 (月)	入学式	本校の学生としての自覚と目的意識を持ち、学習への動機づけとする。	4 時間	4 時間	4 時間
4/8 (火)・4/9 (水)・4/10 (木) 5/1 週 (振り返り)	入学ガイダンス	本校の教育目的、目標、諸規則を理解し、学生生活に適應できる機会とする。	10 時間		
4/10 (水)	幡多看祭	学生の主体的な活動を通し自主性、創造性、協調性を養う。	4 時間	4 時間	4 時間
4/11 (金)	防災訓練	災害について理解し、消火活動、避難方法を身につける。	2 時間	2 時間	2 時間
4/	健康診断	自己の健康状態を知り、健康意識を高める。	3 時間	3 時間	3 時間
4/	地域ふれあい・安全学習① (災害マップ)	自分の身を守る視点から地域の人々との交流や安全学習、災害活動を通して地域貢献を図る。	4 時間		
5/1 週目 (8 木)	誓いの式 (ナイチンゲールについての学習2、リハーサル2、冊子作り2、発表2、本番2 計10)	入学後一定期間の基礎を履修し、その評価のもとに新たな決意を持って看護を職業として選んでいくひとつの区切りとして行われる儀式。	2 時間	10 時間	2 時間
6/	人権学習	人権についての学習を通し倫理観を深める。	4 時間		
7/	地域ふれあい・安全学習② (交通安全)	自分の身を守る視点から地域の人々との交流や安全学習、災害活動を通して地域貢献を図る。	2 時間		
6/8 (日)・6/21 (土) 7/26 (土)・8/24 (日)	オープンキャンパス	歓迎の心をもって来校者に対応できる。合わせて企画・プレゼンテーション能力を養う。	4 時間	4 時間	
7/15 (火)~8/18 (月)	夏期休暇	休養及び自己学習を行い次の学習に備える	5 週間		
7/26 (土)~8/29 (金)				5 週間	
7/9 (水)~8/5 (火)					4 週間
/	防災学習	災害について理解すると共に体験や学習を通して災害に対する意識を高める。	2 時間		
9/3 週目	生活援助技術Ⅱ (1、2年生合同演習)	互いの技術力を高め、学年間での相互交流を図る。	科目内で 時間計上 する	4 時間	
9/27 (第4土)	令和8年度入学試験 (推薦・社会人)				
10/4 週目	地域ふれあい・安全学習③ (ふれあい): 宿毛市老連スポーツ大会	地域の人々との交流や安全学習、災害活動を通して地域貢献を図る。	6 時間		
11/3 週目	地域ふれあい・安全学習④ (ふれあい): 宿毛市防災研修	地域の人々との交流や安全学習、災害活動を通して地域貢献を図る。	8 時間		
12/6 (第1土)	令和8年度入学試験 (一般)				
/	災害訓練 (学外)	災害訓練をとおし災害発生時の救護活動について学ぶ。		6 時間 メディカルラリー12月/3週目	6 時間 けんみん病院 11月/2週目
12/24 (水)~R7.1/6 (火)	冬期休暇	休養及び自己学習を行い次の学習に備える	2 週間		
12/26 (金)~R7.1/9 (木)				2 週間	
12/24 (水)~R7.1/6 (火)					2 週間
2/3 週目	高知県看護協会幡多支部研究会	研究発表会に参加し、自己の看護研究の基礎とする。		4 時間	
3/4 (水)	卒業生を送る会	卒業生の3年間の努力に敬意を表し、全学年が自由に交流できる。	4 時間	4 時間	4 時間
3/6 (金)	卒業式	全課程の修了を祝い、専門職としての自覚を新たにす。	4 時間	4 時間	4 時間
3/ ()	卒業生と看護を語る会	臨床で活躍している卒業生と看護について語り合い、看護への思いを深める	2 時間	2 時間	
3/20 (金)~	春期休暇	休養及び自己学習を行い次の学習に備える	2 週間	2 週間	
	計		65 時間	51 時間	29 時間

※4/14 (月)~実習開始

令和 7 年度 (第 3 学年) 【18 期生】 進捗表

[illegible]

シラバスナンバー

分野		科 目 名	シラバスナンバー
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考と表現	1
		情報科学	2
		情報科学演習	3
		教育学	4
		スタディ・スキル	5
	人間と生活・社会の理解	人間関係の基礎	6
		社会学	7
		家族と健康	8
		生命倫理	9
		心理学	10
		英語Ⅰ	11
		英語Ⅱ	12
		レクリエーション論	13
専門基礎分野	人体の構造と機能	身体のしくみとはたらきⅠ(生命維持、性・生殖機能)	14
		身体のしくみとはたらきⅡ(咀嚼、消化・吸収、排泄機能)	15
		身体のしくみとはたらきⅢ(神経、運動、感覚機能)	16
		身体のしくみとはたらきⅣ(恒常性維持、自己防衛機能)	17
		臨床生化学	18
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染と免疫	19
		病理学	20
		疾病と回復過程Ⅰ(生命維持、性・生殖機能)	21
		疾病と回復過程Ⅱ(咀嚼、消化・吸収、排泄機能)	22
		疾病と回復過程Ⅲ(神経、運動、感覚機能)	23
		疾病と回復過程Ⅳ(恒常性維持、自己防衛機能)	24
		臨床薬理学	25
		治療論Ⅰ(手術療法、救急治療、ME機器)	26
		治療論Ⅱ(リハビリテーション療法)	27
		治療論Ⅲ(放射線治療、内視鏡治療、検査)	28
		栄養と食生活Ⅰ	29
		栄養と食生活Ⅱ	30
	健康と社会支援制度	医療と倫理	31
		公衆衛生	32
		社会福祉論	33
		看護関係法規	34
専門分野	基礎看護学	基礎看護学【目的・対象論】	35
		基本技術Ⅰ	36
		基本技術Ⅱ(フィジカルアセスメント)	37
		基本技術Ⅲ(看護過程)	38
		生活援助技術Ⅰ	39
		生活援助技術Ⅱ	40
		診療の補助技術Ⅰ	41
		診療の補助技術Ⅱ	42
		臨床看護論	43
		臨床判断演習	44
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論【目的・対象論】	45
		地域・在宅看護方法論Ⅰ(専門職連携)	46
		地域・在宅看護方法論Ⅱ(看護)	47
		地域・在宅看護方法論演習Ⅰ(専門職連携演習)	48
		地域・在宅看護方法論演習Ⅱ(看護過程)	49
	成人看護学	成人看護学【目的・対象論】	50
		成人看護方法論Ⅰ(急性期)	51
		成人看護方法論Ⅱ(回復期)	52
		成人看護方法論Ⅲ(慢性期)	53
		成人看護方法論Ⅳ(終末期)	54
		成人看護方法論演習	55
	老年看護学	老年看護学【目的・対象論】	56
		老年看護方法論Ⅰ(病態)	57
		老年看護方法論Ⅱ(看護)	58
		老年看護方法論演習(看護過程・技術)	59
	小児看護学	小児看護学【目的・対象論】	60
		小児看護方法論Ⅰ(疾患)	61
		小児看護方法論Ⅱ(看護)	62
		小児看護方法論演習(看護過程・技術)	63
	母性看護学	母性看護学【目的・対象論】	64
		母性看護方法論Ⅰ(妊娠期・分娩期)	65
		母性看護方法論Ⅱ(産褥期・新生児)	66
		母性看護方法論Ⅲ(健康障害)	67
	精神看護学	精神看護学【目的・対象論】	68
		精神看護方法論Ⅰ(疾患)	69
		精神看護方法論Ⅱ(看護)	70
		精神看護方法論演習(看護過程)	71
	看護の統合と実践	看護管理学(看護管理・看護安全・看護倫理)	72
		看護研究論	73
		災害看護学	74
		看護の統合と実践	75

基礎分野

No. 8	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	野町 磨意 岩井 弓香理
	家族と健康	1(30)	3年次		実務 経験
	【概要】 家族を看護の対象とし、家族が本来有する機能と家族の健康に関するケア機能を高める援助を理解する。又、家族に生じる健康問題と、それに関連した要因への看護援助について理論を活用し学ぶ。				
【科目目標】 1.家族の機能と役割が理解できる。 2.家族アプローチの枠組みが理解できる。 3.家族に焦点をあてた看護が展開できる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	1. 家族看護とは ①家族看護の特徴と理念 ②家族看護の実践の場面	講義			
2	2. 家族看護の対象理解 ①家族とは ②家族構造	講義			
3	③家族機能 ④現代の家族とその課題	講義			
4	3. 家族看護を支える理論と介入法 ①家族を理解するための理論 ・家族発達理論	講義			
5	・家族システム理論	講義			
6	②家族の変化を把握するための理論 ・家族ストレス対処理論	講義			
7	・家族役割理論	講義			
8	4. 家族看護展開の方法 ①家族看護過程とは ②家族看護の実践 ③様々な家族アセスメントモデル	講義			
9	5. 事例に基づく家族看護学の実践 ①急性期患者の家族看護	講義			
10	②慢性期患者の家族看護	講義			
11	③終末期患者の家族看護	講義			
12	④先天奇形をもつ児の家族看護	講義			
13	⑤精神疾患患者の家族看護	講義			
14	⑥高齢の患者の家族看護	講義			
15	筆記試験	試験	*100分		
評価方法		筆記試験 レポート			
教科書		系統看護学講座 別巻 家族看護学(医学書院)			
参考書		看護学テキストNICE 家族看護学(南江堂)			
メッセージ		個々の患者だけに注目せず、周囲の家族成員も含んだ家族全体が看護の対象です。家族を理解し、それぞれに家族に必要な援助を考えていきましょう。			

No. 12	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	ウェイン
	英語Ⅱ	1(15)	3年次	実務 経験	
	【概要】 楽しみながら医療現場で使える英会話を学ぶ。				
【科目目標】 1.英語Ⅰのレベルアップができる。 2.看護活動に活かせる医療専門用語が理解できる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	1. 身体、内臓、病気	講義 演習	* 英語Ⅰの復習をしよう		
2	2. 救急 3. バイタルサインのチェック 4. 手術 5. 薬、医療器具	講義 演習			
3	6. 検診 7. 病気(風邪、嘔吐下痢など) 8. 薬の説明	講義 演習			
4	9. 妊婦、女性の身体 10. 出産 11. 新生児 12. 高齢者	講義 演習			
5	13. リハビリテーション・外傷	講義 演習			
6	14. ロールプレイのチーム分け 15. テーマを選び、ロールプレイの準備①	講義			
7	16. テーマを選び、ロールプレイの準備②	講義			
8	ロールプレイ	講義	* 50分 * オリジナリティ、態度、英語力、 発音を評価します。		
評価方法	skit Contest(ロールプレイ)				
教科書	資料				
参考書	English for Come and Hospitality (鷹書房弓プレス)				
メッセージ	楽しく、会話しよう。				

専門基礎分野

No. 33	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	沖野 美優 生原 杏 角辻知佳香
	社会福祉論	2(30)	3年次	実務 経験	☒ 有 (社会福祉士) ☐ 無
【概要】 社会福祉とは何か、その基本的な性格、そこに包括されている理念や原理、原則、歴史をはじめ、構成されている社会福祉の施策、制度といった社会福祉の基本的理解とともに、看護分野と社会福祉の連携、またその連携のため必要となる社会福祉の視点について考える。					
【科目目標】 1. 社会福祉の概念、歴史が理解できる。 2. 現行の社会福祉制度について理解できる。 3. 保健医療福祉の活動と連携について理解できる。 4. 対象に必要な社会資源の活用、連絡調整の方法が理解できる。					
回数	講義内容		授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】	
1	社会福祉制度と社会福祉		講義	[1～5担当:沖野美優]	
2	現代社会の変化と社会保障 社会福祉の動向		講義		
3	社会福祉の歴史 公的扶助①		講義		
4	公的扶助②		講義		
5	医療保障		講義		
6	所得保障		講義	[6～10担当:生原杏]	
7	社会福祉の分野とサービス(高齢者福祉)		講義		
8	社会福祉の分野とサービス(介護保障)		講義		
9	社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)		講義		
10	社会福祉の分野とサービス(児童家庭福祉)		講義		
11	社会福祉実践と医療・看護(社会福祉援助) 社会福祉実践と医療・看護(連携の必要性)		講義	[11～15担当:角辻知佳香]	
12	対人援助におけるコミュニケーション①		DVD ロールプレイ		
13	対人援助におけるコミュニケーション②		グループワーク ロールプレイ		
14	社会福祉の実践について		講義		
15	筆記試験		試験	*100分	
評価方法		筆記試験			
教科書		系統看護学講座 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉(医学書院)			
参考書					
メッセージ		社会福祉に関わる対人援助の答えは一つではありません。様々な視点で考えてみましょう。福祉について考える貴重な時間になると思います。			

No. 34	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	今上 弓
	看護関係法規	1(15)	3年次	実務経験	
				☐ 有 ☒ 無	
【概要】 看護を取り巻く関係法規を学び、看護師としての法的役割と責任の範囲を明確化し、専門職として倫理観の育成を図ることを目的に設定する。					
【科目目標】 1.法の概念・法規の種類が理解できる。 2.保健医療福祉の諸制度が理解できる。 3.看護実践者としての法的責任が理解できる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	第1章 法の概念 ・法の概念/・法の分類/・衛生法厚生行政のしくみ 第2章 看護法 ・保健師助産師看護師法(目的～学校養成所)	講義	*練習問題		
2	・保健師助産師看護師法(医療過誤～沿革) ・看護師等の人材確保の促進に関する法律 第3章 医事法 ・医師法/・医療法①	講義	*練習問題		
3	・医療法②/・医療関係資格法/・保健福祉関係資格法 ・医療を支える法/・人の死に関する法/ ・緊急時の医療に関する法 第4章 保健衛生法 ・共通保健法	講義	*練習問題		
4	・分野別保健法/・感染症に関する法/・食品に関する法	講義	*練習問題		
5	・環境衛生法(営業、環境整備) 第5章 薬務法 ・薬務一般に関する法律 ・人等の組織を用いた医療関連法/・薬害被害者の救済等 ・麻薬・毒物等の法	講義	*練習問題		
6	第6章 社会保険法 ・医療と介護の費用補償(健康保険法、国民健康保険法、高齢者に医療の確保に関する法律、介護保険法) ・年金(国民年金法、厚生年金保険法) 第7章 福祉法 ・福祉の基盤/・児童分野/・高齢分野/・障害分野/・手当	講義	*練習問題		
7	第9章 労働法と社会基盤整備 ・労働法/・社会基盤整備等 第10章 環境法 ・環境保全の基本法/・公害の防止法/・自然保護法	講義	*練習問題		
8	筆記試験	講義	*50分		
評価方法	筆記試験				
教科書	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令(医学書院)				
参考書					
メッセージ	既習科目の保健医療福祉の諸制度を想起し、看護関係法令についての総まとめをしましょう。				

甞分門集

No. 49	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	新谷 和香 今橋 佳代
	地域・在宅看護方法論演習Ⅱ (看護過程)	1(15)	3年次	実務 経験	
【概要】 療養者および家族の願いを尊重する視点から療養者の安全と自立、介護者負担、意思決定、家族の関係性など総合的にアセスメントする。また、家族が機能を発揮しセルフケア能力を高める看護を展開できる能力を養う。					
【科目目標】 1.療養者だけでなく、家族を含めて援助を考えることができる。 2.療養者および家族の願いを尊重する関わりを考えることができる。 3.訪問看護における適切な態度や行動が理解できる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	1. 事例、療養者宅の生活環境の提示:事例提示する ①在宅で生活する療養者のあるべき姿とは ②在宅で継続して療養者が生活するために何が必要であるのか ①・②についてグループ内で話し合う	グループ ワーク	*在宅看護実習室を療養者宅に設定する。それを予め見ておいて、グループ内で話し合うことでイメージ化を図る		
2	2. 事例のアセスメント 3. 訪問準備記録の作成		*現在の状況をアセスメントし、現在または今後起こりうる問題を導き出す *次回の訪問で必要な情報収集をおこなう		
3					
4			*問題解決のための看護計画を立案する *ロールプレイングをおこなうための技術シートを作成する *技術の練習もおこなう(訪問時のマナーについても含む)		
5	5. ロールプレイングのための技術シートの作成と練習				
6	6. 準備 7. ロールプレイング 作成した看護計画をロールプレイングで発表する 8. まとめ	ロール プレイング	*6～8回:250分 *事前に見た療養者宅で発表をする(なお、役割については当日教員が指名して決定する) *発表後は振り返りをおこなう		
7					
8					
評価方法	提出物、授業態度				
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤(医学書院) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践(医学書院)				
参考書	家族看護学を基盤とした在宅看護論【実践編】(日本看護協会出版会) 演習・実習 在宅看護論(医歯薬出版株式会社) 在宅看護論 実践をことばに(ヌーヴェルヒロカワ) 新看護観察のキーポイントシリーズ 在宅看護(中央法規)				
メッセージ	在宅という限られた場で看護を実践する基礎的知識、態度を身につけましょう。				

No. 71	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	國元 望 大田 彰浩
	精神看護方法論演習	1(15)	3年次	実務 経験	
【概要】 こころを病んだ人を対象とし、障害と障害によっておこる生活のしにくさを含め、統合的に捉え、その人らしく生きることができるよう看護を展開するための思考過程を学ぶ。					
【科目目標】 1.精神障害のある対象に必要な看護が展開できる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	1. オレム・アンダーウッドのセルフケア理論とは ・普遍的セルフケア要件 ・発達のセルフケア要件 ・健康逸脱に関するセルフケア要件 ・セルフケア援助のための看護システム 2. ①オレム・アンダーウッドのセルフケア理論を用いた模擬患者への看護過程の実際 ・疾患・治療・入院形態・援助方針の情報共有 ・模擬患者よりの情報収集(映像と模擬病室の交流) ・患者情報の整理(予期・初期把握)	講義 グループワーク 個人ワーク	＊春期休暇の課題を復習して授業に臨む ＊模擬患者との交流ではコミュニケーション技術を復習して臨む ＊1:情報収集するため情報通信機器を準備する ＊2:オンデマンド教材は講義までに視聴する		
2	②看護過程の実際[身体諸機能・精神状態・医療への反応・食事・排泄] ・患者情報を整理して医療情報や健康問題を抽出し解釈 ・健康問題や対応についてグループ内で意見交換	個人ワーク グループワーク 講義	＊項目毎に各グループでアセスメントする ＊1:同様 ＊2:同様		
3	③看護過程の実際[個人衛生・活動休息・孤独・安全・持っている力] ・患者情報を整理して医療情報や健康問題を抽出し解釈 ・健康問題や対応についてグループ内で意見交換	個人ワーク グループワーク 講義	＊項目毎に各グループでアセスメントする ＊1:同様 ＊2:同様		
4	④看護過程の実際[発表準備] ・抽出した情報や問題から関連図を作成 ・看護問題を抽出	グループワーク 講義	＊1:同様		
5	⑤看護過程の実際[発表準備] ・看護計画立案	グループワーク 講義	＊1:同様		
6	⑥看護過程の実際[発表準備・発表] ・関連図発表 ・看護計画発表 ・発表について意見交換	グループワーク 発表 講義	＊150分 ＊1:同様		
7	⑦看護過程の実際[実施] ・模擬患者への看護計画をもとにした援助の実施 ・実施内容を省察して振り返る ・省察内容を発表する	演習 グループワーク 発表	＊作成した内容を実施する ＊完成した資料は発表までにより、話し合いができるように準備する ＊1:同様		
評価方法		提出物、授業態度			
教科書		系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) 精神看護学 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 (医歯薬出版株式会社)			
参考書		精神看護学概論/精神保健(メヂカルフレンド社) 精神障害をもつ人の看護(メヂカルフレンド社) 情緒発達と精神看護の基本(メディカ出版) 精神障害と看護の実践(メディカ出版) 研修医・コメディカルのための精神疾患の薬物療法講義 (金剛出版) メンタルヘルスイグザミネーション2 第2版 (精神看護出版) 今日の治療薬 (南江堂)			
メッセージ		看護過程を展開して実践するには、脳内神経伝達物質のはたらきや向精神薬の作用機序の知識、さらには人間関係における援助的コミュニケーション技術が必要とされます。その為、臨床薬理学、精神看護学【目的・対象論】、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学技術論Ⅰ援助の人間関係技術の教科書や授業資料を準備し、復習をして講義に臨みましょう。 授業で完成した資料は発表までに意見交換ができるように準備し、事前課題に対しては疑問点や質問を考えて講義に臨んでください。既習の知識と技術を統合させ、精神看護学実習へ繋げましょう			

No. 74	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	宮川 仁 山下 敏弘
	災害看護学	1(16)	3年次	実務 経験	
【概要】 人々の災害に対する危機意識、防災認識、減災活動への関心が高まり、医療者が果たす役割の重要性が強く認識されてきた。一方、看護者は発災直後から中長期的に広い範囲で様々な役割を担っている。災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害看護に必要な基礎知識・技術を学ぶ。更に視野を広げ災害看護の国際協力について学ぶ。					
【科目目標】 1.災害について理解し、さらに災害発生時の社会のしくみが理解できる。 2.災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解できる。 3.災害時に看護が果たす役割と、災害各期における看護活動が理解できる。 4.災害活動に必要な知識・技術が習得できる。 5.災害看護の国際協力について理解できる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	I. 災害看護学とはなにか 1. 災害看護学とは ①求められる災害看護 ②災害看護の歩み ③災害看護と倫理 2. 災害医療の基礎知識 ①災害の定義 ②災害の種類と健康障害 ③災害医療の特徴 ④災害と情報 ⑤災害対応に関わる職種間・組織間連携 ⑥法による減災	講義			
2	II. 災害看護学 1. 災害看護の基礎知識 ①災害看護の定義と役割 ②災害看護の対象 ③災害看護の特徴と看護活動 2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 ①急性期・亜急性期 ②慢性期・復興期 ③静穏期	講義			
3	※災害時の体系的アプローチ(CSCATTT) 3. 被災者特性に応じた災害看護の展開 ①子どもに対する災害看護 ②妊産婦に対する災害看護 ③高齢者に対する災害看護 ④障害者に対する災害看護 ⑤精神障害者に対する災害看護 ⑥慢性疾患患者に対する災害看護 ⑦在留外国人に対する災害看護 ⑧原子力災害による被災者への看護	講義			
4					
5	4. 災害とこころのケア ①災害がもたらす精神的影響 ②こころのケアとは ③被災者のこころのケア ④遺族のこころのケア ⑤被災救援者のこころのケア ⑥救援者のストレスとこころのケア III. 国際救援と看護 1. 求められる災害看護学と国際看護学 ①災害看護と国際看護学を学ぶ意義 ②災害看護・国際看護の原則 2. 国際救援と看護 ①近年の世界における災害の現状 ②国際救護活動の基本理念 ③国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドライン ④近年の特徴的な災害救護活動の概要 ⑤国際救援における看護の展開	講義			

6	IV. 災害看護に必要な技術 1. 傷病者の観察 2. 応急処置の原則(3T) ① トリアージ(PAT法) ② トリートメント(応急処置) ③ 搬送(搬送法) 3. 災害時の情報伝達(トランシーバーの取り扱い)	演習	* 250分 (6回目:100分、7回目:150分)
7			
8	筆記試験	試験	* 50分
評価方法		筆記試験	
教科書		系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学(医学書院)	
参考書		ナースンググラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護(メディカ出版) 災害看護学習テキスト(日本看護協会出版会) 国際災害看護マニュアル(真興交易医書出版部)	
メッセージ		いつ起こるかわからない災害について理解し、一個人として、また看護職を目指す者として必要な知識技術を身につけましょう。	

No. 75	科目名	単位(時間)	開始年次	担当	今橋 佳代 西川 さゆり
	看護の統合と実践	1(30)	3年次	実務 経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無
【概要】 基礎分野、専門基礎分野の知識をもとに、専門分野における看護実践能力を段階を踏んで身につけてきた。その最終段階として、単独あるいは複数の看護が必要な対象に対して、限られた時間の中、さまざまな条件下(緊急、突発要件も含む)で、安全・倫理に基づいた状況判断および医療チームの一員としてとるべき行動を体験的に学ぶ。					
【科目目標】 1.様々な条件下における安全、倫理に基づいた判断・行動を考えることができる。 2.様々な条件下での看護の優先順位を考えることができる。 3.医療チームのなかでのメンバーとしての役割を理解し、行動を考えることができる。					
回数	講義内容	授業形態	備考 【課題・予習・復習・その他】		
1	1. 複数の受け持ち患者の全体像および看護を考える ①事例提示 ②受け持ち患者それぞれの病態を含む全体像および看護のポイント (大きな看護の指針、患者にとってのゴール)	グループワーク	*グループワークの進め方やグループのルールや目標を決める *1～5回までの学習計画を立てる *毎回授業ごと、実施内容、方法について振り返りを行います		
2					
3					
4	③発表	プレゼンテーション 意見交換			
5					
6	2. 様々な条件下での看護活動を考える ①申送	グループワーク			
7	②1日の看護を考える	個人ワーク			
8					
9	③様々な条件下での看護 <シーン1>	グループワーク			
10	④様々な条件下での看護 <シーン2・3>	グループワーク	*10～14回までの学習計画を立てる		
11					
12	④様々な条件下での看護 <シーン2・3>発表	プレゼンテーション 意見交換			
13					
14					
15	3. 全体の振り返り	グループワーク			
評価方法	授業態度、提出物、プレゼンテーション				
教科書	授業中に随時紹介する				
参考書	授業中に随時紹介する				
メッセージ	今までに授業や実習で学んだこと・体験したことをすべて活用しましょう。 3年間最後のインターンシップ実習につなげていきましょう。				